

えん だ け い そ う ど

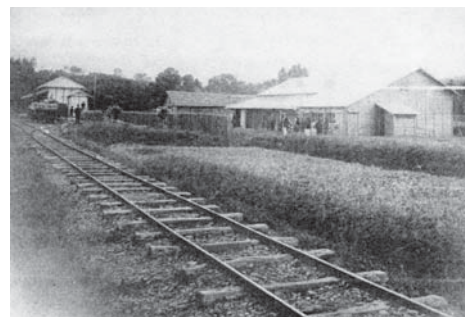
円田珪藻土の さいくつ しゅっか 採掘と出荷



採掘場の様子 採掘は露天掘りで、上部を覆う地層を取り去って採掘しました。20か所ほどあった採掘場は最大で深さ18mに及び、崩落事故もある危険な作業でした。深度が増して露天掘りによる採掘が困難になってくると坑道掘りも行なわれましたが、効率が悪く採算性が低下し、昭和40年代に入ると採掘事業は相次いで停止されました。



採掘作業 柔らかい地層で特別な機材を必要としなかったため、採掘はすべて人力で行なわれました。主に男性が採掘にあたり、スコップで掘り出した大きな塊を女性がタンガラと呼ばれる背負い籠で乾燥小屋まで運びました。採掘場での労働は戦時中や終戦後の物資不足、就職難の時代にあっても貴重な現金収入につながり、地域の人々の経済や生活を支えました。



乾燥小屋と出荷作業 採掘した珪藻土は水分を多く含むため、乾燥小屋の棚で自然乾燥させてから麻袋に詰めて出荷しました。大正12年に村田—永野間に軽便鉄道が開通して現在の東北本線大河原駅まで鉄路が通じると輸送の利便性が飛躍的に高まり、平沢駅に併設された出荷倉庫を拠点に最盛期には2トン積み貨車で1日10両もの出荷があり活況を呈しました。